



5月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

令和5年度 心新たにスタートしました

赤目まちづくり委員会 会長 藤村純子
野山の緑も一段と美しさをまし、おだやかな季節になってまいりました。日頃は、赤目まちづくり委員会並びに赤目市民センターの諸活動に暖かいご理解とご協力を賜っております事、改めてお礼申し上げます。

さて、赤目まちづくり委員会の本年度の定期総会を去る4月23日(日)錦生赤目小学校体育館をお借りし、委任状提出者24名を含む88名の委員の皆様にご主席を頂き、令和4年度の活動報告を始め、決算報告、規約の一部改定並びに令和5年度新役員選出と活動計画及び予算案等委員の皆様のご賛同のもと予定議案すべてが可決決定を頂き、新たな一歩を踏み出す事となりました。改めて皆様方にご報告申し上げ、今後のさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度は、コロナも終息することなくまちづくり委員会として計画していました事業も縮小・延期・中止等により、皆様と共に楽しく過ごす機会が少なかったこと、とても残念に思っています。

その中でも夏まつりに変わって実施致しました秋まつりでは、多くの方々に楽しんでいただくことが出来、久しぶりに笑い声が聞けたこと、とても嬉しく思いました。

令和5年度、去年に引き続き会長をさせていただく事になりました。役員や理事には、次の世代を担う若い方にも加入いただき新しいスタートとなりました。皆様方のご協力をいただき前進して参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

また、本年5月からはコロナが2類から5類に変更になります。まちづくり活動もコロナ前と同じ様に出来ると思い計画をしています。コロナ禍という長いトンネルを抜けた後には、「みんなで考え みんなでつくる夢はぐくむ わがまち赤目」のローガンの様に地域の皆様と共に、赤目のまちが名張で一番輝いている「まち」になるよう進めていきたいと思っておりますので、今まで以上のご協力、ご支援をお願い申し上げます、挨拶とします。

令和5年度戦没者追悼式開催

4月8日(土)午前10時より赤目忠魂碑で、赤目まちづくり委員会主催で令和5年度戦没者追悼式をコロナ以前の様に遺族全員招待で開催し、87名の参加を頂き挙行致しました。

山路区長部会部長の司会で、開式、拝礼、国家斉唱、黙祷の後、まちづくり委員会藤村会長・名張遺族会若山会長等の追悼の言葉の後、全員の献花。赤目遺族会より謝辞があり、一同拝礼で閉会しました。桜吹雪の中、式典中は雨にも降られず厳かに行われました。

御参列いただいた来賓・遺族の方、まちづくりの理事の方々、本当にありがとうございました。



星川サロン4/16開催

毎月第3日曜日午前中の「憩いのサロンほしかわ」を集会場で開催。折り紙・兜の制作など、楽しいひとときを過ごしました。



令和5年度定期総会開催

4月23日(日)1時半より錦生赤目小学校体育館で、赤目まちづくり委員会定期総会を森岡副会長司会のもと90名余りの参加で開催。倉坂議長より、令和4年度事業報告・決算報告等並びに令和5年度の理事・役員・監事等の選出及び事業計画・予算案の承認、新委員の紹介等が行われました。また、あんしんねっと赤目、赤目竹あかりSDGsプロジェクトの活動報告等が配布されました。

なお新役員に、会長・藤村純子(柏原)、副会長・森岡眞理(星川)重森洋志(丈六)、書記・大橋町子(赤目が丘)、会計・有馬聖子(檀)、センター長・藤永和生(長坂)、相談役・亀本和丈(柏原)、監事・三村哲也(柏原)福本美幸(一ノ井)が選出されました。

詳細は、別途戸別配布のチラシをご覧ください。



カレーサロン「サンサンカレー」開催

4月20日(木)11時半より工芸室で、47名以上の方の来訪を頂きました。今回から200円で、お皿・スプーンの持ち込みが不要となった。多くの方に来て頂いて、「美味しい・おいしい。」と大好評でした。スタッフの皆さん・来場頂いた方々共に、ありがとうございました。(開催は、偶数月の第3木曜)



〈お知らせ〉 コーヒーサロン開催



ボランティア活動の一環として、今年で10年目を迎えたふれあいサロン(グループ代表 田中豊)が、気持ちも新たに出発しました。

★毎月第2・4水曜日10時から12時工芸室で開催。
コーヒー+お菓子つき 100円
お友達をお誘いの上、集ってご参加下さい。

1年近くの間、カラー印刷での「まちづくり通信」を発行させて頂きましたが、物価高騰等の状況により、カラーでの発行が難しくなっております。

今後は、白黒での発行とし、年2・3回は、カラーでの発行に変更させていただきますので、ご了承とご理解をいただきますようお願いいたします。

コピーA4(白黒)5円、(カラー)10円。詳細は、市民センターまで。

皆様の情報をお寄せください。

いただいた情報は、取材を進めて、記事やWebサイトなどで紹介させていただきます。(内容は、リライト・一部加筆訂正致します。)

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

ご自由にご参加下さい。

5月8日～6月4日までの予定

赤目町の皆様へ

新緑の 竜神山 トレッキング

標高 466.2 m

旧赤目小学校の校歌にも歌われた、赤目の竜神山。この赤目のシンボル「竜神山」を、清々しい新緑にトレッキング会を開催いたします。

出発 9:30 赤目市民センター

昼食 星川八幡神社 緑刻磨崖仏七つ池 星川石切場跡

到着 15:00頃 赤目市民センター

月	火	水	木	金	土	日
5/8	9	10 ふれあいサロン	11	12	13	14 竜神山トレッキング
15	16	17	18	19	20	21
22	23 忍たま広場 ふれあいサロン	24 忍たま広場 ふれあいサロン	25	26	27 錦生赤目小運動会	28
29	30	31	6/1	2	3	4 名張市クリーン作戦

<お知らせ>

※年度変わりにつき急遽予定が変更する場合がありますので、ご注意ください。

6月の行事予定

- ★6/10(土) 源氏ポータル観賞会予定
- ★6/14(水) ふれあいサロン
市民センター消火避難訓練予定
- ★6/15(木) サンサンカレー
- ★6/28(水) 忍たま広場・ふれあいサロン



<クリーンスタッフ募集>

- ・赤目口駅前公衆トイレの清掃
- ・男女、年齢不問
- ・毎日/1日2回(朝夕)所要時間は、40～45分程度。1ヶ月ごとの交代制
- ・1回の清掃につき600円 ※交通費の支給はありません。
- ・面接等詳細は、赤目市民センターにお問い合わせください。
赤目まちづくり委員会 電話63-0329

Vol.40 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」

赤目のむかし話 Part.8

伊賀忍者とオオサンショウウオ(赤目滝)

伊賀竜忍法を編み出した百地三太夫の弟子赤岩伊助は、赤目渓谷で忍法の修業を重ねていた一人であった。川の魚や山菜をとって常食とし、厳しい訓練をしていたのである。

ある日、沢蟹を獲ろうと川の石を動かしていると、イモリに似た大きな生き物が出てきた。「わあ、気味の悪い怪物だ。何だろう。」と、不思議に思って肌さわってみると、意外におとなしく、いっこうに動かない。計ってみると、三尺(約90cm)余りある。「よし、これはよい友ができた。飼ってみよう。」伊助は早速、川の隅に池を作り、竹を編んでふたをして、住まいを作ってやった。今までに一人で淋しかったが、友を得て一層修行に身が入るようになった。餌には、自分の食糧を分けてやり、すっかり馴れて、語り合うようにもなった。こうして伊助は、オオサンショウウオと共に何年か忍法の修行を続けていたが、その内に、オオサンショウウオの生態と忍者の特色がよく似ていることを知った。

伊助はオオサンショウウオのように修行すれば、一人前の忍者になれるんだ、と訓練を続けた。長年の修行を終えて帰るとき、伊助はオオサンショウウオと一緒に連れて帰ることにした。

帰って百地三太夫にそれを見せると、「これはハジツクイと言って、あの川にたくさん生息している動物で、私も修行中、この動物をよく飼育したものだ。」と言う。伊助が、修行中このオオサンショウウオに教えられたということ話をすると「その通りだ伊助。しかし、このハジツクイのようにするのは大変難しいことなんだよ。」と聞かされた。

した。その後、伊助は、名残惜しみながら、長年友として暮らしてきたオオサンショウウオを竜口川に放してやった。

このオオサンショウウオの棲んでいる所は「サンショウ谷」伊助が修行していた所を赤岩と名付けられた。〈話・滝のお年寄り〉ガワロとハナタカの好物(柏原)

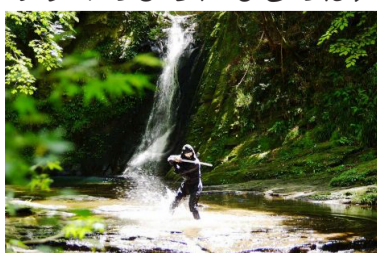
むかしからきゅうりは、川へ流すのやでと教えられてきたが、そのわけについてはのう、このようなことなのや。

むかしのこと、一人で川へ行ったら「ガワロ(かっぱ)に足を引っ張られるぞ」と、家の人によく言われたものや。ガワロは、川の底に棲んでいて、川に泳ぎに来た子どもの足をとる動物といわれきゅうりを好むという。そのために、初なりきゅうりは、食べずに必ずガワロにやるために川へ捨てるのだと教えられた。

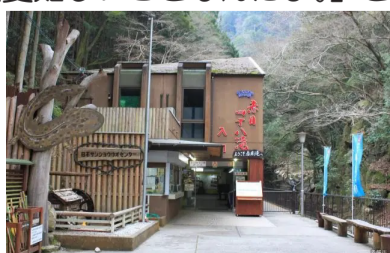
また、深い山や岩がある山へ一人で山仕事に行くときは、「うかうかしていたら、ハナタカ(鼻高=天狗)さんに投げられるぞ」と注意をうけた。一人で深い山に登って、仕事していると落ちたりすることもあったのや。そんなときには「その山のハナタカのしわざや」といって、むかしの村人らに信じられていたのや。

天狗というのは、高い鼻をして目は鋭く、赤い顔をした仙人という思いがあって、これが出てきて人を隠したり、投げ飛ばしたりするのだと恐れられていた。

しかも、その正体は見た者がいない。天狗は赤いものが好きで、その赤い物を食べているから天狗は、赤い顔をしているのやと。山へ持って行く弁当にも、小豆で炊いた赤飯や梅干しなんかを入れなかった。それは、天狗に食べられてしまうからだといわれていたのや。〈話・富森盛一さん 明治28(1985)年生まれ『柏原昔話』著〉



大日滝と忍者



赤目滝日本サンショウウオセンター



ハジツクイ(オオサンショウウオ)



忍者イメージ



ガワロ(かっぱ)イメージ



天狗のイメージ